

2023年11月9日～10日

第68回日本生殖医学会学術講演会・総会

石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、金沢市アートホール

演題番号：P-162

反復不成功患者における胚移植方法と個数の検討

堀金聖羅 佐藤学 森本義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】2022年4月より生殖補助医療が保険適応となった。保険治療には年齢や移植回数
の制限があるため、反復不成功患者へ以前よりも複数個移植の実施を積極的になりつつあ
る。しかし、多胎妊娠は産科的リスクが高く、日本産科婦人科学会は単一胚移植を推奨して
おり、難しい判断が迫られる。残る保険胚移植制限以内に安全な妊娠を成立させるために当
院の移植方法別の妊娠率から移植個数を検討した。

【方法】検討1:2021年1月～2022年12月移植した2218症例対象とし、単一分割胚移植
(SET)、2個分割胚移植(DET)、単一胚盤胞移植(SBT)、2個胚盤胞移植(DBT)、2段階胚移植
(2step ET)の妊娠率及び多胎妊娠率(多胎妊娠症例/妊娠症例)を求めた。検討2:2step ETを
実施した147症例を年齢別29歳以下(A群)、30-34歳(B群)、35-39歳(C群)、40歳以上(D
群)とし、各群の妊娠率及び多胎率を求めた。

【成績】検討1:移植方法別妊娠率および多胎妊娠率はSET18.9%(119/629),0.8%(1/119)、
DET19.0%(70/369),7.1%(5/70)で妊娠率に差はなかったが、多胎率がDETで有意に高くな
った($p<0.05$)。SBT42.7%(446/1044),1.3%(6/446)、DBT41.4%(12/29),16.7%(2/12)、2step
ET46.3%(68/147),27.9%(19/68)で妊娠率に差はなかったが、DBTと2step ETの多胎率が
SBTに比べて有意に高くなった($p<0.01$)。

検討2:各年齢群の妊娠率及び多胎妊娠率はA群50.0%(3/6),100%(3/3)、B群
53.8%(14/26),14.3%(2/14)、C群55.2%(32/58),34.4%(11/32)、D群
33.3%(19/57),15.8%(3/19)となり妊娠率はC群がD群より有意に高くなった($p<0.05$)。
多胎率はA群が他の群より有意に高くなった($p<0.05$)。

【結論】SETとDETの妊娠率に差はなく、反復不成功であってもSETと同等の成果を得られ
た。SBTとDBTおよび2step ETの妊娠率に有意な差はなかったが、2step ETの妊娠率は向

[ここに入力]

上した。特に 20 代 30 代は妊娠率が 50%以上と高く SBT で妊娠に至らなかった反復不成功者の妊娠に有効な手段になりえる。しかしながら 2 個移植することで多胎率も向上しており、リスクを伴うことを十分に説明しておく必要がある。特に 2step ET の 20 代は多胎妊娠率が高いことから移植する胚のグレードにも考慮し、今後検討していく必要がある。

[ここに入力]